

診療所だより

令和3年 号外

2021.06.01



本診療所建物は、築50余年。老朽化が著しく「風格を漂わせる」とは程遠い状態になっていました。数年前より建替実施に向けた準備を進め、紆余曲折を経て、この度ようやく竣工を迎えることとなりました。株式会社ヤマト様をはじめとした関係者の皆様並びに日頃から本診療所をご利用いただいたりしている皆様へ、深く御礼申し上げます。今後もスタッフ一同、地域医療の要となるべく、まい進して参ります。

所長 岸川 一郎

新診療所竣工にあたっての挨拶

所長コラム

「発展的 Scrap and Build」



私たちが診療所の建替に際して重要視したことは①空白期間が最小限での診療継続②患者さんへのサービス向上③新井胃腸科診療所の歴史と伝統の継承でした。

旧診療所からの引越し作業に伴い、一週間の休診期間は生じましたが、全体計画は順調に進行しています。

今回の建替はいわゆる「Scrap and Build」とは逆パターンで「Build and Scrap」にならざるを得ませんでした。建替段階は、①準備②新診療所建築 ③旧診療所取り壊し④外構工事の4段階で、現在は第3段階に入ったところです。すべての工程が完了するのは、今年9月の予定です。



シンボルツリーである銀杏を表現したオブジェ

全工程の終了まで、今しばらくの間患者さんにはご不便をおかけしますが、どうぞご容赦ください。

また、本診療所だより裏面には、今回の建替の主担当建築士でいらっしゃる株式会社ヤマト 江原様よりいただいた文章を転載させていただきました。ぜひご一読ください。

医療法人
新井胃腸科診療所
前橋市昭和町1-16-10
TEL 027-231-2083



建設パートナー (株) ヤマト様からのお言葉

この度、新井胃腸科診療所の新築計画の設計を請け負わせて頂いております株式会社ヤマトの江原と申します。(今回の新築計画では設計から施工まで)僭越ながら設計の立場としてこれまでの経緯を含めてコメントさせていただきます。

新築のお話を頂いたのは2019年9月頃で、そこからプランニングを進めて参りました。建物規模は無床診療所として既存建物と比べると非常にコンパクトでスマートな建築規模になっており、構造は木造2階建てで1階が主に診療所としての用途であり、2階は職員専用の事務所用途となっております。

建物の顔である外観のデザインを模索している中、岸川先生の「患者様と適切な医療機関の橋渡しの門出になる診療所である」という話がとても素敵だなと感じ、(病診連携という今では当たり前となった流れが当時は大変珍しく先進的な試みであった)患者様との架け橋にもなっている、という事をコンセプトにしたデザインに着地しました。

病診連携という架け橋の「橋」をモチーフにしたデザインを木造の化粧柱と梁で構成しており、三角形の構造体は古くから伝統文様として存在している、組子の一つである「三つ組手」(前向きな由来の意)のデザインの意味も外観に取り入れております。内装のしつらえとしましては「木の温もりと和の落ち着きある空間で、患者様への安心感を」というキーワードを軸に設計を行いました。一般的な診療所ではあまり採用されていないと思われる「和のイメージ」の木質空間で構成しており、温もりによって患者様に対してストレスを和らげる、安心出来る空間を建物というハード面からも感じられるように内装デザインを検討しました。

具体的には、外観のモチーフにした「三つ組文様」の組子細工を待合には各所に取り入れ、窓からは障子紙を通した様な柔らかな光が室内に降り注ぐといった、温もりある材料を採用しております。新しいモノばかりでは無く、既存建物の各室の入口に採用されております既存の硝子も今では貴重な建築材料となっております。今回計画では受付の顔となる正面にも一部既存の硝子を再利用させて頂き、長い歴史を感じて頂ける一つではないかと思っております。

新しい建物を造る代わりに失ってしまう物も今回の建物計画では沢山ございますが、すべて壊してすべて新しい訳では無く、長年、新井胃腸科診療所を見守ってきたイチョウの木も何とか今回残すことが出来そうです。長年親しまれております様々な思いを継承する役割も、微力ではございますが、建物計画にも反映してゆきたいと考えております。まずは無事に竣工出来る事を目標に、設計者としても弊社としても尽力する所存です。

新しい診療所が完成するまでご不便をおかけしますが、リニューアルを楽しみにして頂けると幸いです。



外構イメージパース